

西日本の強豪相手に健闘 仁多野球スポーツ少年団

「第二回村田兆治旗争奪少年野球みはらし大会」が七月十八日から二十日まで、広島県三原市民球場で開催され、仁多野球スポーツ少年団が準優勝に輝きました。



村田兆治さん(前列中央)と記念撮影

七月三十一日には、井上町長に準優勝の報告があり、佐藤平キャプテンをはじめメンバーから「各県のチームと対戦して、良い経験となった。今後の大会につなげたい」と力強いあいさつがありました。

この大会には、中国、九州から四十チームが参加。同少年団は、一回戦から強力な打線と持ち前のチームワークを武器に、毎試合二ケタ得点で三回戦準々決勝は昨年度の優勝準優勝チームを下し準決勝まで進出。準決勝、決勝は雨天のため、抽選となりましたが、その実力を遺憾なく発揮しました。

また、八月八日、九日に行なわれたJAカップ県学童野球雲南大会では、二年連続二度目の優勝を果たし、今月末の県大会へ出場します。

第26回中国小学生ホッケー交流大会



第二十六回中国小学生ホッケー交流大会が、七月十八日から十九日まで、三成公園人工芝ホッケー場で開催されました。

今年も中国五県から、男女合わせて三十九チーム(町内二十一チーム)、約四百人が参加し、熱戦が繰り広げられました。

この大会は、奥出雲町のホッケー競技底辺拡大と児童相互の連携を図ることを目的に行われています。

また県外のチームにとっても、一部、二部と幅広く参加できる大会であることから、目標の大会となっています。

選手達は、二日間にわたって、家族やチームメイトから盛んな応援を受けながら、白球を追いかけ、互いに交流を深めていました。

大会成績

- 男子一部 優勝 馬木小学校
- 準優勝 ホッケースポーツ少年団
- 男子二部 優勝 八川ブルーオーシャン
- 準優勝 広島ホッケースポーツ少年団A
- 女子一部 優勝 津ノ井スポーツ少年団鳥取
- 準優勝 女子二部 瀬戸COW COW(岡山)
- 優勝 女子二部 みなりホッケークラブ
- 準優勝 郡家東スポーツ少年団
- ホッケー部(鳥取)
- (五・六年生中心のチームが一部、それ以外が二部)

愛用のそろばんで腕前競う 雲州そろばん珠算競技大会



集中してそろばんをはじく児童たち

第四十二回雲州そろばん珠算競技大会が八月六日、町民体育館で開催され、中四国や関西地方から約五百五十人の児童たちが出場し、腕を競いました。

大会は、珠算技術の向上と基礎学力の増進を目的に、商工会と雲州算盤共同組合が開催。

競技は、学年別など四部門に分かれて、読み上げ算、読み上げ暗算、フラッシュ暗算を行いました。

児童たちは、「始め」の掛け声とともに、真剣なまなざしで、取り組んでいました。

いのちの現場 肌で体験 奥出雲病院で医療実習

医療関係への就職を希望する横田高校の一年生から三年生までの二十一人が、八月四日、町立奥出雲病院で看護師や助産師、薬剤師など十一の職種の中から、希望する職種について、実際の業務を体験しながら学びました。

この体験会は、医療職の将来的確保や高校生の職業教育支援、地域に開かれた病院づくりを目指して、同病院が五年前から春休みと夏休みを利用して実施しています。

このうち、助産師の体験実習には六人が参加。同病院の助産師から、赤ちゃんの抱き方や体のしくみなどの説明を受け、実際にもく浴を体験しました。

生徒からは、「初めて抱いて



新生児のもく浴を体験する横田高校生

この体験を通じて、多くの生徒が医療現場の理解を深め、将来、地元の病院で活躍してくれることを期待しています。

先人の技術に触れる*たたら*操業体験

横田中学校の生徒約八十人が、八月五日と六日、日本で唯一、たたら操業を行う、大呂の鳥上木炭鋳工場(日刀保たたら)で、たたら体験学習に汗を流しました。

一日目は炉づくり、砂鉄の調査、炭切りなどの下準備を行い、二日目の早朝に火入れをし、操業を開始しました。

今年も、例年よりもたくさんの参加があり、数年ぶりに古墳時代の炉の形状をモデルとした一基とレンガ製の一基で操業が行なわれました。

生徒たちは、国選定保存技

術保持者の木原明村下(技師長)や村下養成員から指導を受けながら、約十分間隔で計二百四十キの炭と、計百四十キの砂鉄を交互に投入し、赤々と燃え上がる炉の炎の迫力に驚きながらも、懸命に作業に取り組みました。

夕方には日本刀の原料となる玉鋼を含んだケラ(鉄の塊)を取り出しました。

村下を務めた三年生の生徒からは「何も無い時代に、こうした技を生み出した昔の人はすごいと思った」など話していました。



炉の中に砂鉄を投入する生徒たち

夏山の自然を楽しむ のびのびキャンプ

吾妻山にある大膳原キャンプ場で、小学生(五・六年生以上)を対象にした恒例の「のびのびキャンプ」が、八月六日から三泊四日の日程で行われました。

子どもたちは、班ごとに分かれて、テント設営や箸作りを行い、共同生活を開始。

横田山の会のメンバーが指導にあたり、四日間で、登山や自然観察、クラフト体験やロープワークなどの活動、夜はキャンプファイヤーや星空観察を楽しみました。



箸作りに挑戦する児童たち